

日野自動車による支援事例（多摩冶金〈部工会〉）



活動期間：21年6月～22年2月（9か月間）

自動車部品新規参入における、質/量/コストを支える体質改善

項目	課題	結果
自動化1	従来の極少量生産の仕組みでは、着工から完成まで、常に品質エビデンスと製品が同期していた。量産品は同一ロット内で複数の箱に分かれるため、製品と情報の分離/アンマッチのリスクが生じる	物と情報の流れ図で、物と情報が分離する様を視える化。道具や仕組みを構築することで、品質エビデンスと製品を常に同期させ、混入、誤品などを後工程に流出させるリスクを回避
自動化2	標準作業が確立されていないため、作業員によってやり方がまちまちで、量産品の品質の均一性が担保できない	標準作業を決めて帳票に落とし込み、帳票通りの作業員教育の実施、日常の作業観察で作業の均一性＝量産品質の均一性を担保
ジャストインタイム	【 計画中の新工場レイアウト検討支援】 点在する設備配置や置き場を製品が移動する工程設定となり、流れ化が困難	工程配置の見直しで、戻り経路をなくし入口から出口まで1本の流れ化、移動距離短縮とスペース有効利用化できるアイデアを提案

日野自動車による支援事例（多摩冶金〈部工会〉）

【道具を使って問題を見つける】

◆感染症拡大防止策〔緊急事態宣言発令中〕のなか、現地現物の活動ができずオンラインで推進



日野自動車

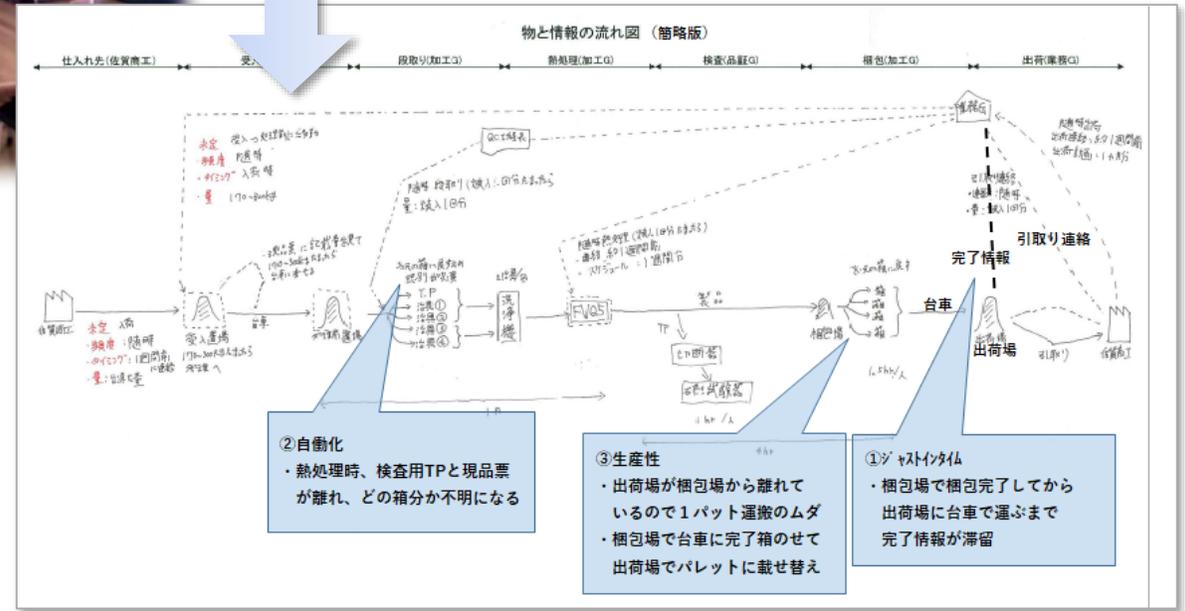


多摩冶金様



『物と情報の流れ図』web勉強会

完成した「物と情報の流れ図」
で問題点を見つける



【顕在化した問題に対し、対策案を立案する】

日野自動車による支援事例（多摩冶金〈部工会〉）

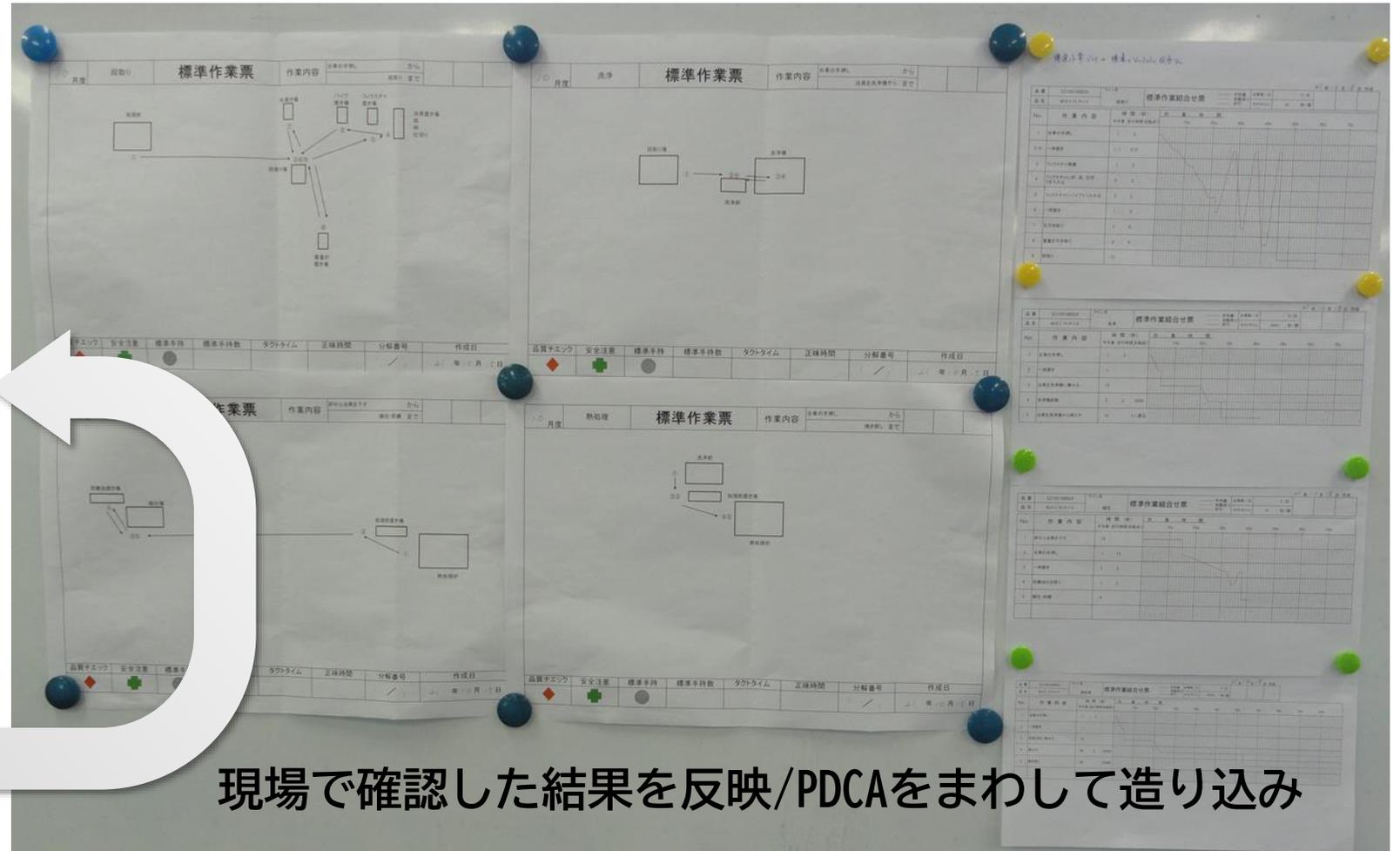
【標準作業で製品の均一性を担保する】

◆感染症拡大防止策〔緊急事態宣言発令中〕のなか、現地現物の活動ができずオンラインで推進

標準作業構築



作成していただいた
標準書をもとに
現地現物で手順を確認

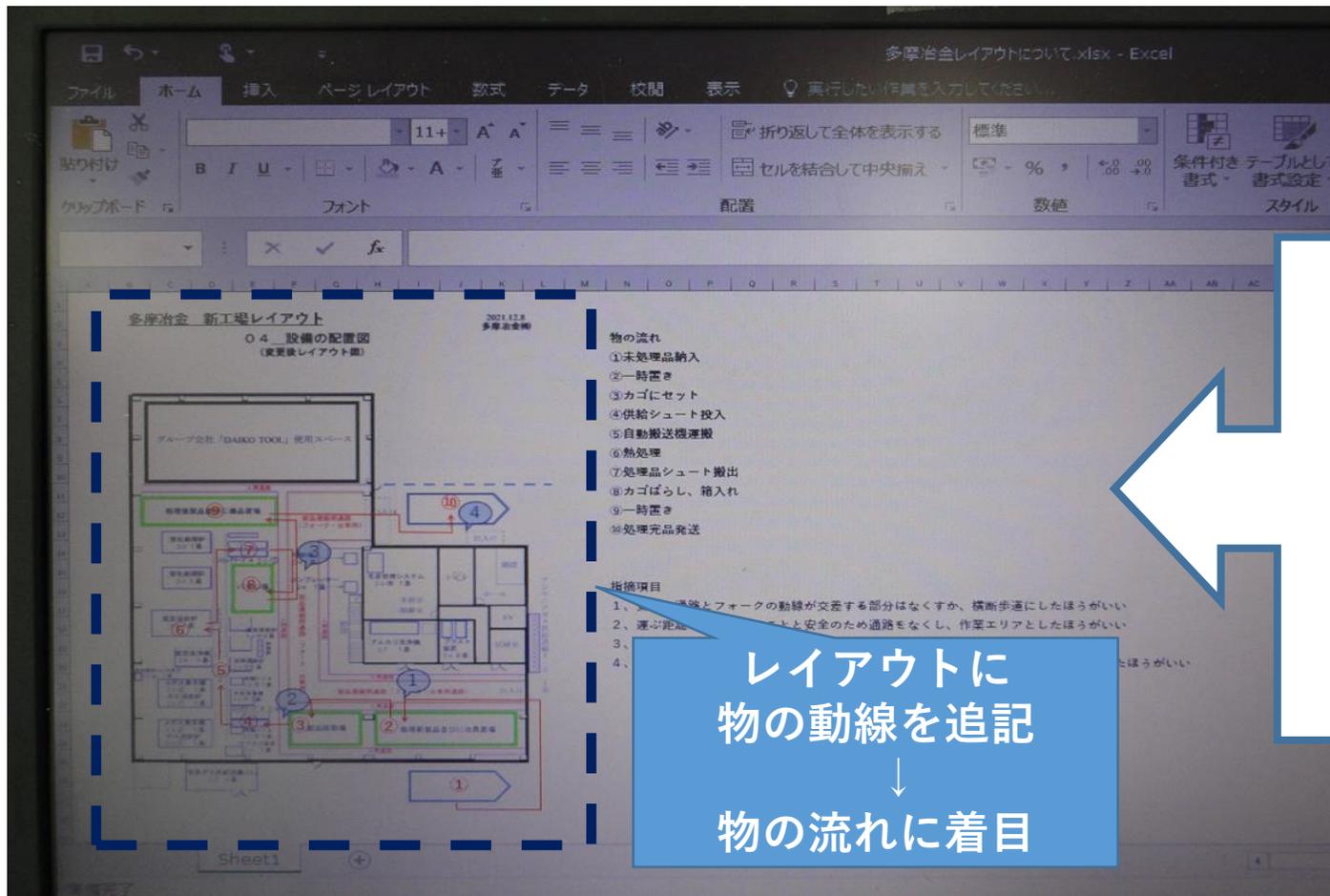


現場で確認した結果を反映/PDCAをまわして造り込み

作業員教育や現場観察への活用で正常異常が視える職場環境の整備

【検討中の新工場レイアウトにTPSの知見をいれる】

◆感染症拡大防止策〔まん延防止重点措置再発令〕のなか、現地現物の活動ができずオンラインで推進



取組み効果

- ①動線の最適化による移動距離の短縮
- ②人用通路を最低限に絞ったことによる作業・荷物面積の最大化
- ③塗装する面積を最低限に絞ったことによる塗装のメンテナンス時間低減
- ④荷物（トラック）の搬出入の経路の最適化

レイアウトに
物の動線を追記
↓
物の流れに着目

工程の流れ化に基づき設備、工程配置見直し

活動まとめ報告会



【参加者の声】

- 品質保証という点で、これまで当社が行っていた航空業界と自動車業界とでは、求められる品質保証の考え方の違いが分かり勉強になりました。
- 当社の弱点がよくわかりました。例えば、動線という点では効率が悪かったりしました。これまでそういう点で見ていなかったなので、大変貴重な経験となりました。
- 無事に自動車部品の量産につなげることができ安心しています。この度のご支援ありがとうございました。